

西中の風

伊丹市立西中学校長

～ 継続と徹底～

垣内 修

第74回 卒業証書授与式を挙行了しました③

第14号の式辞、15号の送辞(卒業生を送る言葉)に続き、卒業式での答辞(別れの言葉)を紹介したいと思います。これは卒業生の代表2名が立派に読み上げました。当日は3年生の保護者と教職員しか聞いていません。三年間の思い出やお世話になった方々への感謝、仲間への想いなど、たくさんの思いが詰まっています。在校生の皆さんにもぜひ読んでほしいと思います。

答辞(別れの言葉)



576日、 私たちが出会い、 共に過ごしてきた日々。

見えないものと闘い、一歩ずつ踏み締めてきた中学校生活。

今、西中学校で過ごした日々を思い返すと、たくさんのことが思い出されます。

3年前、真新しい制服でくぐった、西中学校の正門。大きめの制服に袖を通した私は、少し大人になった気分だった。

隣には、マスクをつけたクラスメート。先生や先輩はどんな人か。友達はできるのか。部活動は何をするのか。楽しみはたくさんあるけれど、明日からまた、しばらく休校が決まっている。中学校に入学した実感が沸かないまま、過ぎ去る日々に、いっそう不安が高まった。先行きの見えない生活が続く中で、みんなに会える日が待ち遠しかった。

1年生。自ら知ろうとすること。

入学から2か月経ち、始まった分散登校。本来行われるはずだった、林間学校は中止。縮小された行事の数々。それでも、登校できることが、ただただうれしかった。初めての教室、初めての部活動、初めてのテスト。中学校生活について、多くのことを知った。何もかも新鮮な日々がめまぐるしく過ぎていく。

初めて学年全体で校外に出たのは、昆陽池公園への小遠足。たった10分の距離だけれど、学校の外で活動できることが嬉しかった。話したい気持ちをグッと抑え、昆陽池公園に向かった。クラス対抗で行った8の字跳び大会は、分散登校でまだまだ遠く感じていたクラスメートと、心が近づいた時間だった。

2年生。挑戦する、言われなくてもできる学年に。

「失敗する悔しさ」

林間学校で行くはずだった神鍋高原での校外学習。広大な自然の中で行ったオリエンテーリングでは、道を間違え、時間通りにたどり着けなかった。けじめがつけられず、叱られることもあり、悔しさが残った。しっかりと先を見て行動しないといけな。次は絶対成功させたいと強く思った。

「働くことの責任」

トライやる・ウィークでは、5つの職業体験を日替わりで行った。働く1つひとつの職業から大切なことを学び、自分の将来について真剣に考えるきっかけとなった。「大変なことたくさんあるけれど、仕事は楽しんでするものだ」という技能員さんの言葉で、考え方が変わった。誰かのために働くというのはこんなにもやりがいを感じるのだと知った。

「成し遂げる喜び」

神戸での校外学習は2年生の集大成。一度延期になり、成功させたいという思いがより強くなった。感染症対策を続け、「この2年生なら校外学習を実施できる」先生に信頼された、その言葉にしっかりと応えたかった。迎えた当日、次にどうすべきか先を見て行動した。地図を見ながらたくさん考え活動した。できなかったことができるようになる。味わった達成感、自信に繋がり、一人ではできないことも、皆がいれば成し遂げられると知った。

3年生。認め合う、主体的な行動ができる学年に。

何もかもが「最後」になる1年。修学旅行は長崎へ。最初で最後の宿泊行事。きれいな海、大きな山、夜に浮かぶ小さな堂の光。民泊では、今まで見たことのない景色や唐津の方の温かさに触れることができた。全員が必死になって船をこいだペーロン。計画をたて、巡った長崎市内での班別活動。いろいろな人の協力があったことで修学旅行は、一生

忘れられない思い出になった。

長崎へ行くもう一つの目的、平和学習。この目で見た資料館の展示や映像は、自分の想像をはるかに超えた。目を覆いたくなるほどの恐ろしい戦争の被害。さるくの方から聞いた、「今もなお、苦しめられている人がいる。」その言葉に胸が痛んだ。戦争の恐ろしさを、命の大切さを学んだ私たちが迎えた（臨んだ）平和セレモニーは、自ずと厳かな空気が流れていた。「二度と戦争を繰り返しません。私たちが伝えていきます。」その強い想いを「大地讃頌」に込めて歌った。

「いつだって大丈夫」それは私たちを勇気づけてくれる魔法の言葉。
中学校生活最後の体育大会。

はじめは、ダンスが難しく、成功するのか不安だった。間に合わないかもしれない。焦りから、言葉がきつくなることもあった。上手くはできない。けれど。何度も何度も練習をした。ダンスリーダーが頑張ってくれているのを、知っているから、その思いに応えたかった。練習を重ねる内。心の中にあった不安は吹き飛び、本番を迎えることが楽しみに変わっていった。

最後の演目は男子演技。演技を1から考え、何度も何度も話し合った。練習は思うように進まず、恥じらいや殻を破れずにいる自分たちの未熟さを痛感した。「本当にこれでいいのか」この一言で、変わった。頑張っている仲間がいるから、自分も頑張れる。困難を乗り越えるたびに、みんなの気持ちが1つになる。体育大会当日、気持ちいいぐらいの快晴。学校全体で盛り上がったあの感動は、今も忘れられない。

私たちにとって2度目の合唱コンクールが最後のチャンス。

「合唱委員に任せよう。」 そんな甘い思いでは 心は1つにならない。方法はよく分からない。だけど、とにかく、全員が必死。長い歌詞。難しいメロディー。自分にはできないかも…と。音楽が苦手な自分は弱気になった。「リズムをつきつきりで教えてくれた!」「一緒に歌ってくれた!」「何度も指揮や伴奏をしてくれた!」これ以上ないほど、クラスの皆で、1つの目標に向かって共に、走った。

私は、部活動が好きだ。

夢中になれるものを知った。下級生の時は、先輩たちが上手くて、自分がついていくことができるのか、とても心配だった。やめたいこともあったし、練習が嫌だと思ったこともある。もっと上手くなりたくて、先輩に見てもらうようになった。数えられるほどしかなかった本番には、いつまでも 慣れない。だけど、最後まで頑張れたのは、仲間がいるから。私たちを先輩にしてくれた後輩がいるから。共に頑張ってきた仲間たち。これほど大切な存在には二度と出会えないと思う。最後の本番は心地よい緊張感が私を包んだ。大丈夫、私たちならできる。大丈夫、協力は、何よりも強い。最後の総合体育大会は、今までで一番、団結して戦うことができた。試合後のミーティングでは、今までの苦労や頑張ってきた想いが、涙となってあふれた。

誰よりもそばで見守ってくれた家族へ。

毎日送り出し、学校であったどんな話も受け止めてくれたのが、家族でした。15年間、支えてくれてありがとう。わがままばかり言って、振り回してきたのに、ずっと応援してくれてありがとう。素直になれず、強く反発したこともたくさんありました。言われていることは自分の弱さだと分かっているから。自分のために言ってくれていることは知っています。これから、迷惑をかけるかもしれないけれど、ずっと側にいてください。

先生方、職員の皆様、今まで本当にお世話になりました。

私たちの代は、今までとは違う、新しいことを作り続ける学年でした。色々と制限があり、もどかしい思いをしていた私たちに、先生方は、たくさんのことを学ばせてくださいました。どんな状況でも生徒を一番に考えてくださる先生方が、手を差し伸べてくださったおかげで、本当に充実した学校生活を送ることができました。

1日も休みたくない。西中学校が楽しいから。

一緒に笑い合える同じ学年の仲間がいたから。3年前、名前も顔も知らなかったあの日から、今ではかけがえのない存在になりました。3年生の皆、離ればなれになるのは、寂しいです。困難を乗り越え、成長し、笑い合い、喜びを分かち合ってきたこの3年間、共に過ごしてくれて、ありがとう。これからは、みんな、別々の道に進むけれど、いつまでも一生の仲間です。

576日。

私たちが出会い、共に過ごしてきた日々は、いつまでも続く一生の思い出。どんな困難が、立ちちはだかろうとも、私たちなら乗り越えていける。

Hop Step Jump そして Fly
今日、私たちは、西中学校を翔び立つ。
西中学校で過ごした、特別な日々を胸に。

